

2020 年度
部門別
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、PDCAサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
各 種 委 員 会	19

凡 例

2021 年 10 月 20 日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数（大学院・大学・短大）……正規課程所属の在学学生。研究生や科目等履修生は含まない。
- 留学生数（同上）……上記「学生数」の中の留学生数の内訳。研究生や科目等履修生は含まない。
- 専任教員数……大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数……その学期に設定されている授業科目の数。
 - ・学則に記載されている専門教育科目（学部共通部分を含む）、及び学科別開講の共通科目（キャリア形成科目、外国語、スポーツ・健康科目）を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している（隔年開講、旧カリキュラムの残存、教員急病など）科目はカウントしない。
 - ・1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない（学内で実習報告の授業等を行うことがあっても同様。さいたま岩槻キャンパスでの学内実習は除く）。
 - ・同一科目・コマで集合授業と分割授業を共に実施している場合（例：子ども学科の音楽）は、担当教員の給与支払い上の扱いに関わりなく1科目・1コマとカウントする。
 - ・再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみ別にカウントする。
 - ・通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年／その他」に分類して数える。
 - ・同一科目を複数の学科の学生と一緒に履修する形態で実施している場合（例えば中国語と韓国語で1科目1コマ、児童教育と日本語で1科目3コマ）は、それぞれの学科に全コマ数を加算する（→前例の場合、中国語と韓国語に1科目1コマずつ、児童教育と日本語に1科目3コマずつ単純加算。この結果、全学科の合計コマ数が実態より多くなっている）。
 - ・学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する（例えば、平成28年度データの場合、外国語学部の春学期13科目15コマ・秋学期16科目18コマは、英中韓日の4学科にそれぞれ単純加算。この結果、全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなっている）。

- 開講総コマ数……その学期に実際に開講（≠実施）されているコマ数の合計。
- ・学則に記載されている専門教育科目（学部共通部分を含む）、及び学科別開講の共通科目（キャリア形成科目、外国語、スポーツ・健康科目）を基準とする。
 - ・1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、開講しているので1コマとしてカウントする。
 - ・担当教員が変更になっても開講されていれば数える。
 - ・7回授業の場合は0.5としてカウントする。また、非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第2位で四捨五入する。
- 進路状況……年度末で確定した、卒業生の進路状況。
- ・就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1年以上）、契約社員（1年未満））で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
- 論文数……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が執筆した件数の合計。
- ・複数の構成員が共同執筆していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同執筆論文について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同執筆者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の論文件数より多くなる可能性がある）。
- 学会発表件数……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が発表した件数の合計。
- ・複数の構成員が共同発表していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同発表者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の発表件数より多くなる可能性がある）。
- 科研費助成金……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。
- ・複数の構成員が共同で獲得していた場合、その学科で1件と数える（1件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。
 - ・他の学科教員が共同研究者に含まれていた場合、それぞれの学科で1件と数えるが、配分額は当該年度の当該所属教員に配分された金額の合計とする（この結果、全学科の金額合計は実際の獲得金額総計と一致するが、件数合計は実際の獲得件数より多くなる可能性がある）。
- 特別研究費……シート提出組織（学科）に所属する1名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大 学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	油谷 純子(学長)		

(1) 特筆すべき事項

【教育(学生指導を含む)】

- ① コロナ禍での遠隔授業は様々な困難があったが、工夫をしながら順調に実施することができた。実習関係の授業に関して教員は動画配信等でツールを駆使しての実施であった。製菓学科はその中、卒業作品制作を実施することができた。
- ② メジプロ(e-ラーニング)の活用は3教科から5教科の習得を目指した。
- ③ 資格取得は残念ながら低調であった。(資格試験の中止が大きな原因でもある)
- ④ 学生の面談は遠隔での実施であり、特に就職支援は困難であった。

【研究】

- ① 研究紀要は例年並みの投稿数で発行することができた。
- ② 研究発表会(短大FD)は年間8回実施した。
- ③ 授業研究は各教員が積極的に行い、特にITCを利用したスキルを習得した。

【社会貢献】

- ① 製菓学科の高校生を対象の体験実習、公開講座、バレンタイン実習は遠隔で実施したが、他の予定していた公開講座はコロナ禍ですべて中止せざるを得なかった。

【管理運営】

- ① 会議による情報共有は効率的に実施されているが、対面による機会は減った。また、歓迎会、懇親会に機会がなく、特に新任教員は組織に慣れるのに難しい環境であった。
- ② 文書による効果的な情報共有ができた。
- ③ 2021年度の認証評価受審に向けて短大一丸となって取り組んだ。

(2) 今後の課題

【教育(学生指導を含む)】

- ① コロナ禍での授業で培ったノウハウを活用し、授業方法の代替も常に用意する必要がある。また、遠隔、対面の利点を活かす授業スキルの工場を検討する。
- ② 学力を向上させる施策であるe-ラーニングの効果の検証と効果的な活用法を検討する。
- ③ 自律した学習の習慣づけの取り組みを継続し、魅力のある授業を提供するため、教員の教育力を上げるための施策を策定し実施する。
- ④ 多様な学生に対しての学習の支援を効果的に実施する方策を検討する。
- ⑤ 製菓衛生師、歯科衛生士の全員合格を目指して学生支援に注力する。
- ⑥ 就職環境が激変していることを踏まえ学生への効果的な支援を検討・実施する。

【研究】

- ① 教員の研究活動を活性化させ、紀要を含む研究活動成果の公表義務が望まれる。
- ② 学部資金等の獲得努力のための講習会等の実施を検討する。

【社会貢献】

- ① 教員の研究成果の発信力が弱いので、地域連携・研究推進センターと協力し、強化していく。
- ② 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作り積極的に進める。

【管理運営】

- ① 計画的な運営が少しずつ実施できているが、より意識的に計画的な運営をめざす。
- ② 学科を超えて教員間の懇談の機会を増やすことによる意思疎通を図る。
- ③ 報告・連絡・相談を徹底し、PDCAを意識しての運営を徹底する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	生活科学科				
評価対象年度				2020年度(令和2年度)					
入学定員		一名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		一名				教授	1名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	0名				准教授	0名	0名	0名
	2年	1名				専任講師	0名	0名	0名
	3年	0名				助教	0名	0名	0名
	4年	0名				計	1名	0名	0名
	計	1名	助手	0名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		0名				
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		12名				
	3年	0名	授業科目数	春学期	0コマ				
	4年	0名		秋学期	0コマ				
	計	0名		通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		0名	開講総コマ数		春学期	0コマ	内非常勤 担当		
退学者数(年度末集計)		0名			秋学期	0コマ		0件	
進路状況 (年度末集計)	就職	1名			通年/その他	0コマ		0件	
	進学	0名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	0件	内国外			
	その他	0名		紀要	0件				
	計	1名		その他	0件				
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物			0件	0件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		0件	内国外	0件	
社会貢献関連項目		件数	具体例						
産学連携(企業・団体)		0件							
地域連携(自治体・団体)		0件							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		0件							
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0件							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	生活科学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 遠隔授業が大部分となったため、google classroom等を活用して、講義資料や課題の事前の配布をおこなった。</p> <p>② 保護者に対しての成績表配布について春学期末に送付した。</p> <p>③ 学科の閉鎖を滞りなく行う。</p> <p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 2020年度はほとんどの授業が遠隔授業となり、google classroomとzoomを使った授業となった。学生のモバイル環境によって受講状況に影響を及ぼし、学修成果にも影響を及ぼしていた。</p> <p>② 保護者に対しては、今までの秋学期の成績表配布だけでなく、春学期の成績表の送付することで、保護者に対する学習成果の情報提供を行うことができた。</p> <p>③ 9月に生活科学科最後の卒業生を送り出し、生活科学科の閉鎖が滞りなく完了した。</p>
研究	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 生活科学科としては短期大学部の紀要への投稿がなかった。</p> <p>② 短大全教員参加による教授会後の研究発表会は今年度報告することとなった生活科学科(ビジネス社会学科)の教員も報告を行った。</p> <p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 認証評価受審に向けて、紀要への投稿や学会への積極的な報告を推奨したが、紀要投稿はなかった。</p> <p>② 教授会後の研究報告会では、今年度生活科学科で担当となった常松教授が報告を行った。</p>
社会貢献	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 2019年度に実施した高校生向けの公開講座をコロナの影響で開催することができなかった。</p> <p>② 2019年度に実施した地域向けの公開講座をコロナの影響で開催することができなかった。</p> <p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 対面による公開講座を実施することができず、ビジネス社会学科と合同での高校への学科新聞を送付することで、高校とのつながりを維持するのにと</p> <p>② 地域向けの公開講座の開催を計画していたがコロナの影響で中止となった。</p>
管理運営	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① ビジネス社会学科との合同の学科会議後のFD委員会などを通して、学科の教員全員で学生のフォローを行った。</p> <p>② 認証評価受審に向けて、生活科学科に関する部分の報告書の執筆などをおこなった。</p> <p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① ビジネス社会学科との合同の学科会議後のFD委員会を毎月行うことで、学生の情報を共有することができた。</p> <p>② 認証評価の報告書の執筆など、生活科学科に関する部分について、所属する委員会活動を中心に執筆を進め、報告書を完成させることができた。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	製菓学科				
評価対象年度				2020年度(令和2年度)					
入学定員		55名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		110名				教授	2名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	55名				准教授	1名	0名	0名
	2年	65名				専任講師	2名	0名	0名
	3年	0名				助教	0名	0名	0名
	4年	0名				計	5名	0名	0名
	計	120名	助手	3名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	1名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		1名				
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		9名				
	3年	0名	授業科目数	春学期	28コマ				
	4年	0名		秋学期	22コマ				
	計	1名		通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		0名	開講総コマ数		春学期	55コマ	内非常勤 担当	15件	
退学者数(年度末集計)		5名			秋学期	56コマ		23.3件	
進路状況 (年度末集計)		就職 54名 進学 3名 その他 6名 計 63名			通年/その他	0コマ		0件	
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		0件	内国外	0件	
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円	学会発表件数(年度末集計)		1件		内国外	0件
論文数 (年度末集計) ※刊行日基準		学会誌 0件 紀要 1件 その他 0件							
社会貢献関連項目	件数	具体例							
産学連携(企業・団体)	0件	包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、東京物産・逸品見本市はコロナ禍によりタブロイド紙の食レポ・ボランティア学生による当日販売促進どちらも中止となった							
地域連携(自治体・団体)	0件	コロナ禍「公開講座」は中止した。							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	5件	東京和菓子協会本部理事(運営委員、技術研究委員委員長)、一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人東京都洋菓子協会、日本食育学会、日本栄養改善学会							
その他社会貢献事業 (高大連携など)	0件								

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目 自己評価 ※箇条書きにて記入

教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do)	<p>① 全面遠隔授業になり例年のような比較は難しいが、準備期間が短かった分、春学期はじめは大小のトラブル(資料の出し忘れ、通信トラブル)はあったが、授業の進め方を学科内で共有できた分早い段階で順調になった。</p> <p>② コロナ禍による遠隔授業で、担当科目以外に学生との接点がなく、就職活動に携わる機会もなく、学生との関りは極めて希薄であった。</p> <p>③ 製菓衛生師試験に向けてはGoogleClassroomを使用し試験対策を行った。</p> <p>④ 退学者が増えた。(2019年度2名、2020年度5名)</p> <p>⑤ 2年生は卒業作品制作のため秋学期は対面実習を実施した。1年生は洋菓子の補完実習(6日回)和菓子、製パン(2回ずつ)を対面で実施した。</p> <p>⑥ コロナ禍での就職活動はハンディが大きかった。</p>
	2. 点検・評価(Check)	<p>① 遠隔授業は戸惑いもあったが、早い段階で順調に実施できた。</p> <p>② 退学者の増加はコロナ禍により実習ができなかったことによりモチベーション低下が主な原因として考えられる。</p> <p>③ 製菓衛生師試験直前に試験を想定しての試験対策を実施し、合格率は88.9%であった。</p> <p>④ 退学者には面談等を行ったが残念ながら進路変更等の理由であり、退学を食い止めることは難しかった。</p> <p>⑤ 2年生は春学期のゼミを秋学期に移しての実施になったので2限続きでゼミ授業をした。</p> <p>⑥ 就職は最終的には就職希望者は100%決めることができた。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)	<p>① 遠隔と対面になった場合、授業の進め方を検討する。</p> <p>② 退学者を最小限に抑える。</p> <p>③ 製菓衛生師試験の対策講座の改善を検討する。</p> <p>④ 感染対策を講じた上で、対面実習を実施する。</p> <p>⑤ 感染症の影響で内定が取り消されることがあったが、引き続き就職活動ができるよう指導する。</p>
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)	<p>① 遠隔と対面になった場合、ハイブリッド型の授業を実施する。</p> <p>② 1年生に関しては入学後早い時期に個人面談を実施する。</p> <p>③ 欠席過多の学生は学科で情報共有して対応する。</p> <p>④ 製菓衛生師試験の全員合格を目指す。</p> <p>⑤ 引き続きではあるが、学生には早い時期から就活の意識を持たせる</p>
研究	1. 取組状況(Do)	<p>① 短大研究発表会において、遠隔授業、Youtube等資料作成の発表をした(根本)</p> <p>② 紀要を投稿することができた(細川)</p> <p>③ ゼミ活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミで新たに細工道具別の製作順序を使用することで技術習得をするための理解が向上した(伊藤) ・初年度、マジパンゼミを担当し自身の技術の研鑽に努めた(小田)
	2. 点検・評価(Check)	<p>① 研究発表会は滞りなく行えた。</p> <p>② 紀要への投稿が1名と少なかった。</p> <p>③ 初年度のゼミ指導(小田)は全員作品完成に至った。</p>
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)	<p>① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする</p> <p>② 紀要の投稿本数を伸ばす。構成員の半数を目標とする。</p> <p>③ ゼミは作品の向上につながる指導に努める。</p>
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)	<p>① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。</p> <p>② 紀要の投稿を促す。</p> <p>③ ゼミは作品の向上につながる指導になるよう研鑽に努める。</p>
社会貢献	1. 取組状況(Do)	<p>① コロナ禍、東京和菓子協会技術研究委員会委員長として講習会開催での後進指導ができなかった。</p> <p>② 包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、東京物産・逸品見本市の短大窓口を担当した。</p> <p>③ インターンシップについて、包括連携協定先である米屋株式会社に、インターンシップ継続を依頼した。</p> <p>④ 体験実習、公開講座、バレンタイン実習はコロナ禍で対面での実施はできなかった。</p>
	2. 点検・評価(Check)	<p>① 包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、東京物産・逸品見本市はコロナ禍によりタプロイド紙の食レポ・ボランティア学生による当日販売促進どちらも中止となった</p> <p>② 例年1年生が夏季インターンシップに参加していたがコロナ禍により今年度は見合わせた。</p> <p>③ 体験実習、バレンタイン実習をYoutubeを利用してオンラインで実施した。</p>

開	<p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <p>① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習を対面で実施できるよう準備する。 ② 企業との連携に関しては、引き続きふさわしい相手先を検討する</p> <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① 体験実習、公開講座、バレンタイン実習は実習内容を見直し、時間短縮で実施する。 ② 連携先に関しては相手先の規模、連携内容について学科内で協議して決める</p>
	<p>1. 取組状況 (Do)</p> <p>① 会議や委員会業務内容などがイレギュラーなことが多く、円滑な運営が難しかった。 ② コロナ禍、想定外の事例が多くなったが、学科長連絡会を軸に他学科長と連携して柔軟に対応できた。 ③ 学科内の人事計画について ・新任、転所属学科、退職、産休と教員勤続年ではあったが、大きな波風は防ぐことができた。 ・次年度は助手2名が任期が満了になるので早めに着手する。 ④ 全面遠隔授業となり、保護者からの問い合わせを学科で対応することが多くあった。 ⑥ 全面遠隔授業となり、非常勤講師の授業実施に協力した。 ⑦ 次年度の入学者定員は確保できた。</p> <p>2. 点検・評価 (Check)</p> <p>① 会議、委員会はオンラインでの開催がほとんどになったが、対面で話し合う機会も多く、意思疎通は問題なくできた。 ② 学科長連絡会により3学科共通認識を持つことができた。 ③ 学科内人事計画について、助手の満期については個々に面談をして意向を確認した。 ④ 遠隔授業における保護者への対応について、授業の開始時期や授業料の返還などは学科独自での対応には限界があった。 ⑤ 遠隔授業で必要な動画撮影、学生からのクレーム等非常勤講師の授業実施に協力した ⑥ 受験生対応について、オープンキャンパスが全面オンライン開催になり受験生との接点がなかったが、Web個別面談を実施することで補うことができた。</p> <p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <p>① 前年度対面、本年度全面遠隔、そして次年度は対面と遠隔の両面での授業形態になるので、本年度の経験を活かして対応する。 ② 学科長連絡会により3学科共通の課題の解決に努める。 ③ 学科内人事計画について、早期の対応に努める。 ④ 遠隔授業における保護者への対応について、大学として、保護者対応する機関(窓口)を設置を検討する。 ⑤ 受験生対応について、Web個別面談はコロナ禍、安全に面談することができるが画面越しや画面OFFでの面談は例年通りにいかず、課題となった。</p> <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① 遠隔で作成、使用した資料等を活かし、ICTを取り入れて授業を実施する。 ② 学科長連絡会を定期的で開催し、課題解決に向けて3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について、助手の任用については春学期中に任用申請の手続きをする。 ④ 遠隔授業における保護者対応についての窓口を設ける。 ⑤ 受験生対応について、2021年度は対面での個別面談を実施する。</p>
管理運営	

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	ビジネス社会学科				
評価対象年度				2020年度(令和2年度)					
入学定員		75名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
収容定員		150名				教授	4名	0名	0名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	95名				准教授	1名	0名	0名
	2年	75名				専任講師	3名	1名	1名
	3年	0名				助教	0名	0名	0名
	4年	0名				計	8名	1名	1名
計		170名	助手	2名	0名	0名			
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		0名				
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		13名				
	3年	0名	授業科目数	春学期	23コマ				
				秋学期	32コマ				
	計	0名		通年/その他	0コマ				
休学者数(年度末集計)		0名	開講総コマ数		春学期	41コマ	内非常勤 担当	9件	
退学者数(年度末集計)		5名			秋学期	56コマ		17.2件	
進路状況 (年度末集計)		就職			61名	通年/その他		0コマ	0件
		進学	5名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準	学会誌	2件	内国外	0件	
		その他	6名		紀要	2件		0件	
計		72名	その他	0件	0件				
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		1件	520千円	書籍等出版物		6件	0件		
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		1件	210千円	学会発表件数(年度末集計)		1件	内国外	0件	
社会貢献関連項目		件数		具体例					
産学連携(企業・団体)		1件		①哲学堂公園 国名勝の哲学堂公園との連携による、連携授業の実施					
地域連携(自治体・団体)		1件		①本郷法人会 文京区本郷法人会 中小事業者がより自立した経営を目指すための講座の実施					
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		6件		①秘書サービス接遇教育学会 会長 ・秘書サービス接遇教育学会の全国大会はコロナ禍のため中止だったが、研究収録は発刊することができた。 ②日本秘書クラブ会長 会長 ・実務技能検定協会が管轄するビジネス系検定の講習、試験の実施等の委託を日本秘書クラブが受けている。 ・コロナ禍ではあったが、全国の支部がその任に当たった。実務技能検定協会との連絡等で役割を果たした。 ③日本インターンシップ学会 理事 ④実務技能検定協会 評議員 ⑤日本ビジネス実務学会 東北・関東支部役員 ⑥実務技能検定協会 ・ビジネス系検定の検定問題の校閲を行った。					
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0件							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目 自己評価 ※箇条書きにて記入

教育 (学生指導含む)	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① カリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングを作成した。</p> <p>② 遠隔授業が大部分となったため、google classroom等を活用して、講義資料や課題の事前の配布をおこなった。</p> <p>③ 履修科目計画や各学期ごとの振り返りシートを実施した。</p> <p>④ 保護者に対しての成績表配布について年度末の送付に加え春学期末にも送付した。</p> <p>⑤ 短期大学部として夏期休暇中にFD活動の一環として「春学期の取り組みを秋学期に活用する勉強会」を実施した。</p> <p>⑥ 11月の保護者会をオンラインで実施した。</p> <p>⑦ メジプロについて「ベーシックセミナー」「キャリアデザイン」の授業を通して担任が指導をした。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① カリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングを作成し、カリキュラムツリーは2021年度学生便覧に掲載するための準備ができたが、カリキュラムマップ、科目ナンバリングの有効活用までは至らなかった。</p> <p>② 大半の授業が遠隔授業となり、google classroomとzoomを使った授業となった。学生のモバイル環境によって受講状況に影響を及ぼし、学修成果にも影響を及ぼしていた。具体的には、学生の自宅の通信環境の状況によって、授業途中で通信が遮断され受講できなくなることや、使用するPCによってワードでの課題提出ができないこと、また遠隔での情報系授業の場合、Macユーザーはアプリケーションソフトの使用がWindowsと違うことなどによる混乱があった。</p> <p>③ 1年生に関しては年度初めにベーシックセミナー内で科目履修計画シートを作成し、学習意欲の涵養を行うことができた。また1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートを作成し、学校生活についてのPDCAを行うことができた。</p> <p>④ 保護者に対しては、今までの秋学期の成績表配布だけでなく、春学期の成績表の送付することで、保護者に対する学習成果の情報提供を行うことができた。</p> <p>⑤ 2020年度はコロナ禍の影響でやむを得ず遠隔での授業実施となったが、遠隔授業の充実を図るための教員の勉強会を実施することで遠隔授業の充実を図ることができた。</p> <p>⑥ 例年行っている保護者会をコロナ禍の影響でオンラインの実施となったが、対面以上に参加率が高まり、来年度以降の参考とすることができた。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは94.7%の学生が修了した。一方でステップアップコースはクラスによって達成状況に差があるが90.5%の達成率であった。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① カリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングの有効活用を目指す。</p> <p>② 次年度も遠隔授業が続くが、授業内容によって遠隔授業と対面授業の割り振りを検討し、充実した教育を受けられるように務める。</p> <p>③ 引き続き年度初めの科目履修計画シートの作成による学習意欲の涵養と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートを作成することによって学校生活のPDCAを行っていく。</p> <p>④ 春、秋の成績表配布など、保護者への情報提供を積極的に進めていく。</p> <p>⑤ アフターコロナ後にもどのような授業スタイルが学生の満足度を高めることができるのかをひきつづき検討する機会を設ける。</p> <p>⑥ 遠隔から通学している学生や地方から入学している学生が多くなる中で、ハイブリッド型の保護者会実施も検討していく。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは国、数、英に加え理科と社会も必須とし、ステップアップコースは国、数、英の3科目を必須とし全員の修了を目指す。また、進捗状況のチェックは毎月の学科会議後のFD委員会で行うことで、教員全員で全学生の進捗状況を把握していく。</p>
	<p>4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① DPIにもとづくカリキュラムツリーとカリキュラムマップ、科目ナンバリングの関連性を見直し、履修登録前の段階での学生への周知を行っていく。</p> <p>② 教務委員と学科長が連携をし、実習系の科目など対面授業の方が学習成果が高まる授業をピックアップし対面授業を実施できるように計画していく。</p> <p>③ 例年に引き続き年度初めの科目履修計画シートの作成と、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートを作成することによって学校生活のPDCAを行っていく。</p> <p>④ 例年に引き続き春、秋の成績表配布のほかに、学科新聞の送付など保護者への情報提供をより積極的に進めていく。</p> <p>⑤ 学科会議後のFD委員会などを通して、学生の満足度向上の方法をひきつづき検討する機会を設ける。</p> <p>⑥ 遠隔から通学している学生や地方から入学している学生が多くなる中で、ハイブリッド型の保護者会実施する。</p> <p>⑦ メジプロについてベーシックコースは国、数、英だけでなく、理科、社会を必須にすることで学習基礎力の向上を目指す。また、進捗状況については、引き続き毎月のFD委員会で、教員全員で進捗状況の把握を行う。</p>

研究	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 短期大学部の紀要への投稿が2本だった。</p> <p>② 全教員参加による教授会後の研究発表会は今年度報告することとなったビジネス社会学科の教員も報告を行った。</p> <p>③ 授業参観を春学期と秋学期に実施した。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 認証評価受審に向けて、紀要への投稿や学会への積極的な報告を推奨したが、紀要投稿については2本のみの結果となった。</p> <p>② 教授会後の研究報告会では、今年度担当となったビジネス社会学科の教員すべてが報告を行った。</p> <p>③ 例年実施している教員による授業参観を実施し、教育方法に対する気付きを得る場となっているが、今年度もほぼ全員が授業参観を行った。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① 紀要への投稿や学会での報告、論文投稿などを積極的に行っていく。</p> <p>② 教授会後の研究報告会では、今年度も報告担当となる教員の報告を行い、教員相互の研究についての情報共有を行っていく。</p> <p>③ 授業参観の参加率を高めることで、他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上に務める。</p>

	<p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新任の教員や任期を更新した教員を中心に、紀要や学内論集への投稿、学会での報告や論文投稿を積極的に行っていく。 ② 教授会後の研究報告会以外の場でも、例えば学科内FD研究報告会などを開催するなど教員の研究について相互に知る機会を増やす。 ③ 学科のすべての教員が授業参観に参加し、積極的に他の教員の教育技法を学ぶことで学生への教育効果の向上を目指す。
社会貢献	<p>1. 取組状況 (Do)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実施予定の高校生向けの公開講座『自己分析ゲーム』をコロナの影響で未実施となった。 ② 実施予定の地域向けの公開講座『クリスマスカフェメニューとテーブルマナーを学ぶ』をコロナの影響で未実施となった。 ③ コロナの影響があったが、ビジネス社会学科教員が、学会運営や地域連携などに携わった。 <p>2. 点検・評価 (Check)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 対面による公開講座を実施することができず、高校への学科新聞を送付することで、高校とのつながりを維持するのにとどまった。 ② 地域向けの公開講座の開催を計画していたがコロナの影響で中止となった。 ③ 秘書サービス接遇教育学会、日本インターンシップ学会、実務技能検定協会、日本秘書クラブ、日本ビジネス実務学会などの学会運営に携わった。 <p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 高校生向けの公開講座や学科新聞の送付など高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールする方法を検討する。 ② 地域向けの公開講座も、対面で行うだけでなく、遠隔での開催も視野に入れながら、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。 ③ 学科の知名度を高めるためにも教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。 <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年間を通しての高校生向けの公開講座や学科新聞の送付など計画し、継続的に高校生や高校側とのつながりを維持していく。 ② 対面または遠隔、ハイブリッド等も視野に入れ、地域向けの公開講座を実施する。 ③ 学会活動に積極的に参加する。発表や論文投稿を行う。
管理運営	<p>1. 取組状況 (Do)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科会議後のFD委員会などを通して、学科の教員全員で全学生のフォローを行った。 ② 認証評価受審に向けて、報告書の執筆など、全教員が認証評価にかかわる体制を整えた。 ③ コロナ禍のなかでも、学生が安心して学習に取り組めるように学科としての体制づくりを整えた。 <p>2. 点検・評価 (Check)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① FD委員会を毎月行うことで、1年生の出欠状況やメジプロの達成状況、2年生の就活状況などを全学生の状況を共有することができた。 ② 認証評価の報告書の執筆など、各教員が所属する委員会活動を中心に執筆を進め、報告書を完成させることができた。 ③ 学科共通のメールアドレスを周知させることで、学生が学校生活全般にかかわる不安をすぐに解消することができる体制を整えることができた。 <p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整える。 ② 認証評価の報告書の内容を深く理解し、オンライン会議をスムーズに行える体制を整える。 ③ 遠隔授業も実施が予定される中でgoogle classroomなどのITCツールを活用することで、学生のコミュニケーションをスムーズにとれる体制を整える。 <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科共有のgoogleドライブを活用することで、共有すべきデータを教員がいつでも活用することができるようにする。 ② 認証評価受審に向けて、関係する教職員の報告書内容確認の場を設定し、内容の確認作業を進めていく。 ③ 教員間において必要な学科情報、学生情報等は共有し、学生に発信する情報はgoogleclassroomを活用し、教員や学生にとって必要な情報を常に確認することができる体制を整える。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1	学科名	歯科衛生学科			
評価対象年度				2020年度(令和2年度)				
入学定員		60名	専任教員数 (5/1現在)		特任内数	博士内数		
収容定員		120名			教授	6名	1名	6名
学生数 (5/1現在) ※含留学生	1年	44名			准教授	1名	0名	0名
	2年	29名			専任講師	2名	0名	0名
	3年	0名			助教	3名	0名	1名
	4年	0名			計	12名	1名	7名
	計	73名	助手	2名	0名	0名		
留学生数 (5/1現在)	1年	0名	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		4名			
	2年	0名	非常勤講師数(5/1現在)		15名			
	3年	0名	授業科目数	春学期	31コマ			
	4年	0名		秋学期	19コマ			
	計	0名		通年/その他	0コマ			
休学者数(年度末集計)		1名	開講総コマ数		春学期	35.5コマ		
退学者数(年度末集計)		2名			秋学期	26コマ		内非常勤 担当
					通年/その他	0コマ		5.8件
進路状況 (年度末集計)	就職	0名	論文数 (年度末集計) ※刊行日基準		学会誌	2件		
	進学	0名			紀要	2件		0件
	その他	0名			その他	1件		0件
	計	0名						0件
科学研究費等補助金 ※当該年度配分額		0件	0千円	書籍等出版物		0件		
特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		2件	400千円	学会発表件数(年度末集計)		4件		
						内国外	0件	
社会貢献関連項目	件数	具体例						
産学連携(企業・団体)	2件	<ul style="list-style-type: none"> 三菱自動車エンジニアリング株式会社 研修講師 小林製薬 共同開発研究事業(唾液中の抗ウイルス物質の分泌を促進させインフルエンザの予防効果の向上を図るサプリメント開発) 						
地域連携(自治体・団体)	2件	<ul style="list-style-type: none"> 福島県社会福祉協議会 令和2年度研修講師 高齢者福祉施設「神楽坂」 地域交流イベント 						
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載	6件	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人 日本口腔衛生学会 代議員 一般社団法人 日本口蓋裂学会 評議員 一般社団法人 日本障害者歯科学会 代議員 日本歯科衛生教育学会 常任理事 一般社団法人 日本口腔感染症学会 理事 日本顔学会 理事 						
その他社会貢献事業 (高大連携など)	6件	<ul style="list-style-type: none"> 全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区会 理事・監事 全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 一般財団法人 歯科医療振興財団 歯科技工士試験委員 東京都立第五商業高等学校 WEB進路ガイダンス(模擬講義) 創玄書道会(第57回創玄漢字部第一科で秀逸を受賞、第46回創玄現代書展へ出品) 毎日書道会(第72回毎日書道展へ出品) 						

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	高久 悟(学科長)		

項目 自己評価 ※箇条書きにて記入

教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	① コロナ禍により、春学期は演習科目・実習科目を含めて全て遠隔授業となったが、教員は様々な工夫を行って対応した。 ② 秋学期の実習科目については密を避けて隔週で面接授業、講義科目と演習科目は遠隔授業となったが、緊急事態宣言再発出による授業形態の変更、学外実習の休止等にも対応することとなった。 ③ 2019年度はGPA1.0未満の学生がいたため、2020年度は授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを含め、全教員で履修指導に取り組んだ。 ④ e-learning【メジプロ】を活用し、入学生の「ベーシックコース」の確実な修了と「ステップアップコース」への取組み向上を目指した。 ⑤ 2年次科目「キャリアデザイン」にて、外部の歯科衛生士及び本学キャリアセンターと連携して就職・キャリア支援を実施した。
	2. 点検・評価(Check)
	① 春学期の授業評価アンケート「総合評価」の学科平均は3.56であり、短大平均の3.47を上回った。「ベーシックセミナー」では、ZoomのブレイクアウトルームとGoogleスライドを活用したグループワーク等を実施し、遠隔授業でのアクティブラーニングと学生交流の機会を設けることができた。 ② 実習科目は隔週、かつ感染リスクを避けて主要な内容である学生相互の実習を実施できなかったため、到達目標の達成は困難であった。秋学期の授業評価アンケート「総合評価」の学科平均は3.40であり、短大平均の3.49を下回った。 ③ 2020年度末でGPA1.0未満の学生はいなかった。また、2020年度入学生の休学者・退学者はいなかった。 ④ 「ベーシックコース」は入学生全員が取り組んだが、確実な修了には至らず、「ステップアップコース」の取組みも他学科と比較し低調であった。 ⑤ 2年次演習科目「キャリアデザイン」も遠隔となったため、十分な支援は行えなかった。また、【メジプロ】は1年次生対象の契約であるため、「ステップアップコース」の取組み指導には活用できなかった。
研究	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 2021年度もハイブリッドの授業形態が継続するが、引き続き効果的な授業方法を検討する。 ② 実習科目においては、感染予防に留意しつつ、学生が到達目標にできるだけ近づく授業方法を検討する。 ③ 授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを含め、引き続き学科教員全員で履修指導に取り組む。 ④ e-learning【メジプロ】の取組み指導を強化し、確実な修了を目指す。 ⑤ 2年次の「キャリアデザイン」にて就職・キャリア支援を実施し、3年次で学外実習及び遠隔授業で登校機会のない学生のキャリア支援を工夫する。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 実習科目では各学生の様子をできるだけ観察する。遠隔授業においてもアクティブラーニングと学生の交流の機会をできるだけ設ける。 ② 実習科目においては、状況の変化に合わせて対応できるよう代替案を準備しておく。2年次の学外実習開始前にはOSCE(客観的臨床能力試験)を行うとともに、1年次にそれを予告し、学生のモチベーションを高める指導を行う。 ③ 新入生には授業開始前のMeet、Zoomのテストミーティングを行う。学生全員との面談(Web面談含む)、必要に応じた保護者との3者面談を行う。 ④ 「ベーシックセミナー」にて、「ベーシックコース」の確実な修了の指導を行う。「ステップアップコース」への取組みについては、秋学期の授業外でGoogle Classroom等を活用して指導を行う。 ⑤ 「キャリアデザイン」にて、就職・キャリア支援を実施する。3年次生を対象に学科独自で就職・キャリア支援のGoogle Classroomを開設し、遠隔での情報提供、就職・キャリア支援を実施するとともに、ゼミ担当教員等が個別相談等を行う。

研究	1. 取組状況(Do)
	① 新学科開設2年目に入り学会活動あるいは論文等執筆活動の活性化を図った。 ② 研究活動の活性化を支える研究費の確保は教員にとって重要な能力であると考えられる。
	2. 点検・評価(Check)
	① 前年度実績は上回ったが、主な研究成果としては紀要投稿論文2編、学会誌投稿論文2編、学会発表4編と全体として低調であった。 ② 申請研究や外部研究資金の獲得件数は研究活動の指標の一つであるが、競争的研究資金の獲得への取組みは極めて低調である。
社会	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 研究成果は毎年出るとは言い難いが、少なくとも数年ごとに学会発表および論文執筆等の実績に結び付いた公表努力が望まれる。 ② 教育の質的向上は何よりも教員の研究活動の活性化が不可欠であり、今後積極的な外部資金等の獲得努力が望まれる。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 学科会や教員個人面談の折など様々な機会をとらえて教員一人一人に繰り返し研究活動の活性化を促していく。 ② 研究成果がなくとも一律配分の方式は検討の余地があるかと考えられる。まずは、科学研究費補助金などに応募しなかった教員に理由書の提出なども考えられる。

社会	1. 取組状況(Do)
	① 地域社会への貢献は全教員で取り組むべき今後とも重要な課題である。 社会に開かれた大学を実現するためにもどのような社会貢献が可能かについて新設の本学科は議論を深める必要があると考える。
	2. 点検・評価(Check)
社会	① 公開講座、産学連携、地域連携、高大連携等は学科新設後間もなく知名度が低いうえにコロナ禍の影響が大きくすべて中止となった。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)

貢献	<p>① 超高齢社会を迎え、人々の保健・医療・福祉に対する関心は高く、これらの分野の教育研究を行う本学科は様々な社会的活動・地域貢献等を通して広く地域社会に寄与できる素地がある。</p> <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① 公開講座や産学連携、地域連携、高大連携などに関するニーズや課題を整理し、活用可能な社会資源を把握して具体的な連携活動につなげたい。</p>
管理運営	<p>1. 取組状況 (Do)</p> <p>① 歯科衛生学科では、学科会議が意思決定のための議決機関であり、すべての専任教員が学科会議の構成員である。 なお、通常、定例の臨床・臨地実習委員会が学科会議に引き続いて開催されている。</p> <p>2. 点検・評価 (Check)</p> <p>① 開催状況は、月例の定例会議と適宜随時の臨時会議が設定されていて適切に開催されている。 なお、当該年度は、コロナ禍の蔓延の影響で学科におけるほぼすべての会議はオンラインでの開催であった。</p> <p>3. 課題と次年度の改善目標 (Action)</p> <p>① 日常的に情報の共有を心がけ、とりわけ学生の動向把握には引き続き十分に意を尽くす。 ② 学生が健康と安全に留意し、楽しくそして充実した有意義な学生生活を送ることができるよう引き続き支援に努める。</p> <p>4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)</p> <p>① 学科の教育活動、研究活動を始めとする諸活動の円滑な運営・実施・進行に関する検討・調整に努める。 ② 就学支援活動の総括である学科長と各学年担当や学生委員、教務委員が緊密に連携して日常的な学生の状況把握と迅速な対応に努める。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート	評価対象年度	2020年度(令和2年度)
カテゴリー	教育課程		
アセスメント	卒業における学修成果アセスメントテスト(2020年度制定)		
学部・学科	短期大学部製菓学科、ビジネス社会学科		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
製菓学科	1. 確認基準 「和菓子」「洋菓子」「製パン」(製菓衛生師、実践コースに共通する座学)「食品衛生学」「栄養学」各分野における基本的な知識を測る、DPIに沿った問題を各分野8問(合計40問)出題する。 テスト形式(本年度はGoogle Classroomを利用)で確認する。
	2. 実施日 2021年1月20日午後4時30分より5時30分(1時間)
	3. 評価方法 各分野50%以上の正答率を合格基準とする。 合格に達していない学生には再テストを実施する。
	4. 結果 62名合格
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価
ビジネス社会学科	1. 確認基準 学生が選択している各フィールド(秘書・ファイナンシャル、メディカル秘書、マーケティングビジネス、観光・ホテルビジネスの4フィールド)を内容とする。 ビジネス社会学科共通のGoogle classroomのクラスを設定し、配布と提出を行う。
	2. 実施日 配布時期:1月26日(火)~2月1日(月)期末試験期間 提出期限:2月1日(月)17:00まで
	3. 評価方法 各課題のキーワードのうち6単語以上を使用し作成する。 模範解答を参照し合否を決定する。 合格に達していない学生に対しては、再テストを実施する。
	4. 結果 71名合格
	5. 達成度(S・A・B・C・D評価) S:100%、A:80%以上、B:50%以上、C:50%未満、D:実施できず S評価

各種委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリ	教務支援		
担当委員会・センター(構成員数)	教務委員会(大学:31名、短大:9名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者(役職)	鷲谷 正史(学務部長(教務担当))、鎌田 京子(教務部長)		
会議概要(実績回数)	年12回		
添付エビデンス	①2021年度以降の授業実施方針について、②2020年度秋学期期末試験の実施について、③キャンパスプラン抽選機能について、④「臨地研修」に関する申し合わせ、2020年度臨地研修計画書及び報告書の承認件数、⑤ナンバリンググループについて、⑥2021年度シラバス原稿の点検作業について、⑦フレッシュマンセミナーテキスト改訂について		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況(Do) ① 遠隔授業を実施するため学修支援体制の整備を行った。 ② 遠隔授業実施に伴い、期末試験の実施についてルールを定めた。 ③ 学生にとって公平感のある履修登録が円滑にできるようにするため、キャンパスプランの機能を用いて、通常の履修登録期間に先立ち抽選申込みの期間を設けた。 ④ 「臨地研修」の計画及び報告を承認し単位認定を行った。 ⑤ 各科目のDP・CPとの関連を明確にし、難易度や順次性およびDP・CPの一部である専門基礎力と関連付けて整合的に科目体系が学生に理解しやすくなるよう、科目ナンバリング制度を2020年度より導入した。 ⑥ シラバスの原稿点検作業を体系的に行った。 ⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて改訂の検討を行った。
	2. 点検・評価(Check) ① 遠隔授業の実施について ・学生及び教員(非常勤講師含む)に対して、教務課及びヘルプデスク(他部署職員9名+外部委託3名)にてサポート体制を整備した。 ・非常勤講師向けに遠隔授業にかかる配信設備を備えた教室を6部屋提供した。 ・専任教員及び非常勤講師にGoogle Classroom講習会を実施した。 ・学生及び教員向けポータルサイトを立ち上げた。 ② 遠隔授業での期末試験について、一律のルールで実施することにより、新型コロナウイルス感染症対策として密を避けることや遠隔試験・対面試験の実施時間重複を避けることができた。 ③ 抽選機能については、かねてより学科から改善の要望があった点である。今回、履修者数に上限のある科目の登録がスムーズにできるようになった。 ④ 「臨地研修」について、 ・研修前に「臨地研修計画書提出届」より申請し、教務委員会にて承認を得た学生に実施を認めた。(2020年度:66件) ・研修終了後に「臨地研修報告書」を提出し、教務委員会にて承認を行った。(2020年度:57件) ⑤ DP・CPの一部である専門基礎力に関連付けた科目ナンバリングをしたことよって、DP・CPとの関連が不明瞭な科目が明確になった。また科目体系化のためのカリキュラムマップを作成する段階へ進めた。しかし本来の学生への周知する目標の達成はできていない。 ⑥ シラバスについて、授業科目区分ごとに担当責任者を定め、第三者によるシラバスの点検作業を行った。 ⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、2021年度で現行のテキストは4年目となるため、内容・構成を大きく見直し次の4年間に対応したものとす。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 遠隔授業に対応しきれない教員へのサポートや、孤立する学生への対策が必要。感染対策に配慮しながらも十分な教育効果がある授業を行う必要がある。 ② 期末試験について、2021年度以降は授業の形式により試験パターンが多様となり複雑である。また、再試験申込み手続きのオンライン化が必要である。単位認定の適切性を十分に担保する必要がある。 ③ 抽選機能の意義が学生に十分に理解されておらず、抽選に当選したものの、その後取消を行う学生が多く、煩雑な事務手続きが発生した。また、これにより、本来、履修すべき学生が抽選に外れ履修できなかった事例が発生した。 ④ 「臨地研修」について、 ・担当学科にて学生が安全かつ有意義な研修を行えるように、事前指導を充実する。 ・「臨地研修」を積極的に奨励し、優れた研修を行った学生に成果報告会を開催する。また、ホームページ掲載も検討する。 ⑤ 学部のDP及びCPIに十分に則した科目構成となっていないケースや、分野に偏りがあるケースなど、カリキュラム改正にはには時間を要するが、議論を尽くして、丁寧におこなう。カリキュラムマップの作成や学修成果の可視化へとつなげていく。また、学生に対しても、順次、適切に開示し、活用を促していく。 ⑥ シラバスについて、シラバス執筆項目に合わせた点検ポイント(チェックリスト)の見直しを行う。 ⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、遠隔授業の受講方法に関する単元、肉体・精神等の保健衛生に関する単元などを盛り込むことを予定している。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 新型コロナウイルス感染症の状況に即座に対応できるように、流行状況と授業形態でマトリクスを作成し、きめ細かな準備を行う。 ② 期末試験がどのようなパターンとなるかわかりやすく図解により示す。また、再試験の手数料をコンビニ支払できるようにする。不正防止の案内を、遠隔試験に対応したものに更新する。

- ③ 履修指導を丁寧に行い、抽選機能が適切に活用されるようにする。また、週末の人員を手厚く確保するなど、事務手続きが適切に処理されるようにする。
- ④ 「臨地研修」について、コロナ禍においても、学生が安全かつ有意義な研修を行えるようにするため、キャンパス内に共通の理解を持つ必要があるとの認識より、臨地研修に関する申し合わせをアップデートし、教務委員会にて検討を行う。
- ⑤ カリキュラムマップに基づき、科目がDP・CPIに即し、専門基礎力の分野に偏在がなくなるよう、議論を重ね、適切なカリキュラムとなるよう改正の検討を行う。また、適切な内容・バランスとなったものから、学生に開示する。DP・CPの一部である専門基礎力を育成するための学修成果の可視化から学生への履修指導の際に教員が活用し、学生にはカリキュラムマップの見方や活用の方法を丁寧に説明することを通して学びの体系化を促す。
- ⑥ シラバスについて、ディプロマポリシーと整合した具体的な到達目標、適切な授業外学修、明確な成績評価基準などを学生等に対して明確に示すための資料として精度のより高いものとする。
- ⑦ フレッシュマンセミナーテキストについて、2022年度のテキスト改定に向けて2021年度も継続して検討していく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生支援(厚生補導)		
担当委員会・センター(構成員数)	学生委員会(18名) ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者(役職)	今林正明(学務部長学生担当)、高橋寛(学生部長)		
会議概要(実績回数)	8回(当初9回を予定していたが第3回会議は中止)		
添付エビデンス	学生委員会議事録/「なんでも相談室」関連資料/特定支援団体運営委員会資料/奨学金データまとめ/相談室利用状況/相談室関連資料/新入生書類WEB化資料/桐光会事業報告		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 修学を含む学生生活全般に対応した総合的な相談窓口として、2020年度より学生課内に「なんでも相談窓口」を設置した。</p> <p>② 大学(学園)の全面的支援の下、特定支援団体「チアリーディング部」(以下、チア部)が活動を開始した。(日本チアリーディング協会加盟、当初部員数4名)</p> <p>③ 修学支援新制度(授業料等減免、給付型奨学金)に関する業務を新たに開始した。</p> <p>④ コロナ禍により遠隔授業中心の学生生活に合わせた学生支援のため、学生相談室において遠隔面接(Zoom)の導入した。</p> <p>⑤ 学生の利便性向上、業務の効率化、コロナ感染防止等のため、各種手続き、提出物等のWeb化と、届出・申請書類の押印廃止(一部を除く)を行った。</p> <p>⑥ 教育後援「桐光会」の協力を得て、コロナ禍に対応した緊急支援事業(遠隔授業助成奨学金支給、応急支援奨学金申込時期の弾力化)を実施し</p> <p>⑦ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、桐和祭(大学祭)、スポーツフェスティバル及びびスポーツフェスティバル等の行事を中止した。</p> <p>⑧ 遠隔授業実施に伴い、受講のためのPC購入が困難等、特段の配慮を要する学生に対してタブレット端末を貸与した。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 「なんでも相談室」について、年度の前半を中心に遠隔授業に関する相談等で一定の成果(相談等件数:223件)をあげることができた。また、休学者の復学支援についても、アンケート調査や利用案内の配布等の試行的な取組みを通じて同窓口としての関わり方等の課題を認識することができた。</p> <p>② チアリーディング部について、新型コロナ感染防止に留意しながら活動を継続し、第22回関東チアリーディング選手権大会「エキシビジョン」部門に出場する等、コロナ禍による制約が多い中、初年度としては十分な成果をあげることができた。</p> <p>③ 修学支援新制度について、学生課担当者と業務委託職員との協働の下大きな混乱もなく、春学期522名、秋学期495名の学生が制度を活用した。</p> <p>④ 学生相談室について、遠隔面接導入により学生相談室利用者数は増加し、コロナ禍における学生支援として効果が見られた。</p> <p>⑤ 各種手続き、提出物等のWEB化について、当初の期待以上の成果を上げることが出来た。とりわけ、新入生の提出物のWeb化(学生カード及び写真)は、年度末の繁忙期における業務効率化と学生の利便性向上に顕著な効果があった。</p> <p>⑥ 「桐光会」の奨学金について、遠隔事業助成奨学金の支給(学部生及び短大生5,815名を対象に計225,920,000円を支給)と応急支援奨学金の追加募集(各学期末に実施)により、会員(保護者)の経済的負担軽減と学生の修学継続に大きく貢献した。</p> <p>⑦ 学内諸行事の中止については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から妥当な判断であった。</p> <p>⑧ 遠隔授業実施に伴うタブレット端末貸与については、希望する66名の学生に対して実施し、遠隔授業受講のための環境確保につなげることができた。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① 「なんでも相談窓口」の認知度向上と、中途退学防止等の課題解決を意識した活動を、学科や他部署と連携しながら展開する。</p> <p>② チアリーディング部について、JAPAN CUP2021、全日本学生選手権大会等への出場を見据え、競技力の向上と部員獲得に注力する。</p> <p>③ 修学支援新制度について、学生、保護者が理解できていない点が多い。特に、適格認定は家計状況だけでなく、学業成績も継続の条件となるので、教員も制度を理解する必要がある。</p> <p>④ 学生相談室について、コロナ禍で閉塞感を感じ、遠隔授業を受講することに対してストレスを感じている学生へ、多様な手段での学生支援を可能にする。</p> <p>⑤ 各種手続き、提出物等のWEB化について、手続き方法(学生証用写真のアップロード方法等)に関する問い合わせが増えたため、対応に苦慮する状況が生じた。</p> <p>⑥ 「桐光会」の奨学金について、保護者のニーズの把握に努め、それに沿った形で桐光会奨学金制度の運用の改善に努めるとともに、必要に応じて制度改正を行う。</p> <p>⑦ 学内諸行事については、新型コロナウイルス感染のリスク低減のための方策(規模、方法等)について検討し、可能なものについては開催する。</p>
	<p>4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)</p> <p>① 「なんでも相談窓口」について学生への周知に努めるとともに、中途退学防止策については副学長を中心としたプロジェクトで検討している内容を試験的に実施していく。</p> <p>② チアリーディング部について、指導体制の強化(2020年度中にコーチ2名採用)による技能向上をはかるとともに、部員獲得に向けチアリーディング部を有する高校との連携を強化する。</p> <p>③ 修学支援新制度について、対象者の情報(単位取得や出席状況など)を学科と共有する等、学科の協力を得ながら、対象学生への指導、支援に努める。</p> <p>④ 学生相談室が主催するグループワークやzoomを利用したランチミーティングを開催し、学生の孤立感を和らげる取り組みを行う。</p> <p>⑤ 学生証用写真のアップロード方法等について、事前告知の工夫と入試広報部と連携し、出願時の写真取り込み方法を再検討し、改善を図る。</p> <p>⑥ 「桐光会」の奨学金について、桐光会奨学金委員会等で提起された問題等を分析、検討し、保護者委員との協働を通じて運用の改善、制度改正等につなげていく。</p> <p>⑦ 学内諸行事については、大学祭のオンライン開催等、他大学の事例を参考に対処策を検討する。</p>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター(構成員数)	就職・キャリア委員会(28名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者(役職)	長崎秀俊学務部長(進路担当)、鈴木あ久利(就職支援部長)		
会議概要(実績回数)	11回		
添付エビデンス	2020年度就職・キャリア委員会議事概要、内定者数一覧、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目 自己評価 ※箇条書きにて記入

事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、大学の場合は、学部共通科目の中に、2年次に必修科目「専門とキャリア」、3年次に選択科目「仕事と社会」を配置し、短大の場合は、1年次に必修科目「キャリアデザイン」を配置し、キャリア教育を行っている。</p> <p>② 内定率については、毎月の就職・キャリア委員会に報告し、常に学生の就活状況のバロメーターとして確認している。動いていない学科や学生について、電話やキャリア委員を通じて直接働きかけ、学生の置かれている状況によって個別相談や講座の紹介等を行い可能な支援に務めている。</p> <p>③ キャリア研修について、「キャリア研修Ⅰ」は新型コロナウイルス感染症拡大の為、実際の企業での対面式の研修は難しく、実施されなかった。</p> <p>④ 個別の学生相談については、就職支援部の11名の職員の他に、カウンセラー5名が常時学生相談にあたっており、2020年度はWEBによる相談に切り替え年間約2,400件の相談を行った。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、2020年度から就職・キャリア委員会が組織され、全学的な構成員が月1回の定例会議に集まり、就職支援について協議するとともに、委員を通じて、就活に役立つ講座情報の周知や個別の学生への対応などがなされている。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、コロナ禍の取組みとして、卒業年次毎に大学生向けと短大生向け、教員向け、公務員対策講座希望者向け、およびキャリア授業科目毎にGoogle Classroomを開設し、就職支援に関わる本学からの情報を一元化して配信している。合わせて、Google Classroomを通じて、学生からの講座申し込み管理も行っている。2020年度は「就活キックオフ講座」、「インターンシップガイダンス」、「公務員対策講座」といった定例講座をはじめ、「SPIweb講座」、「企業研究の仕方講座」、「魅力的なエントリーシートの書き方講座」、「面接対策講座」、「グループディスカッション実践講座」、「求人紹介イベント」等といったテーマ別講座も、毎月多数行っている。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、これまで保護者の来場のもと実施していた説明会をオンデマンドにより10月に大学、11月に短大を実施し、事前に「保護者のための就職活動支援ガイド」を作成し郵送した。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、対面での説明会から開催方法をWEBに変更し、2月と4月に「合同企業WEBセミナー」として開催した。</p> <p>⑨ アンケートについて、短大では、卒業生の就職した企業379社への「就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査」を実施した。</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、正課科目におけるキャリアデザイン科目では、一部外部講師の雇用により、現況に鑑み、実践に即したキャリア教育を行うことができています。</p> <p>② 内定率について、コロナ前の2019年度は大学95.5%、短大97.8%と95%超であったが、コロナ禍の2020年度における内定率は、大学93.9%短大96.8%と大学は95%を割り、短大は微減した。</p> <p>③ キャリア研修について、新型コロナウイルス感染症の影響により、一旦停止した「キャリア研修Ⅰ」を実施方法やプログラムの構成から見直し、再開に向けた検討を行った。</p> <p>④ 個別の学生相談について、「WEB個別相談」の形で、対面指導ができないコロナ禍にあつても、学生相談や説明会をこれまで通り実施できた。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、Google Classroomの登録者数を就職・キャリア委員会で報告し、その後学科毎に登録者の氏名を通知することにより、未登録学生への登録を促すこととした。毎月の就職・キャリア委員会における各学科キャリア委員との連携によって、より個別の学生に寄り添った就職支援が可能となっている。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、対面講座から、Zoomを通じたWEB講座に切り替え、これまで同様の講座を実施できた。周知や申し込み管理、事後アンケートについても、Google Classroomを通じてスムーズに行えた。また在学生向けの就活マニュアルである「キャリアブック」をGoogle Classroomに搭載し、Google Classroomに就活の情報を集約した。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、初のオンデマンドによる全体会と、それに続く各学科ごとに異なる方式での学科説明会や個別相談会に関して、混乱のないように書面にて説明し、「保護者のための就職活動支援ガイド」を同送した。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、初の「合同企業WEBセミナー」は、2月に9日間、4月に2日間開催し、参加者は延べ2,899名を数えた。</p> <p>⑨ アンケートについて、短大の「就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査」は回答率27%となり、短大との情報共有を行った。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① 正課授業のキャリア教育について、「専門とキャリア」「仕事と社会」など、全学の正課教育科目を通して、本学独自のブランディングの上で支援を行える人材を獲得する。</p> <p>② 内定率について、内定が決まらないということ以外にも、就活の中で求人検索ナビを使いこなせていないため、状況が未登録のままの学生もいて、周知や指導が必要である。またすべて落ちてしまっても、そこからまた早く仕切り直しができるようにモチベーションを絶やさない工夫、講座や声かけが必要である。</p> <p>③ キャリア研修について、Zoomやオンラインによる状況に応じた形式での「キャリア研修Ⅰ」の実施を検討する。</p> <p>④ 個別の学生相談について、学生一人ひとりの就職・進学に対して、WEB相談やGoogle Classroomを通じて、更に細やかな指導・助言を行う。</p> <p>⑤ 学生の状況把握について、年間を通じて、Google Classroom登録者数、就職内定率を就職・キャリア委員会にて報告し、振り返りを行っている。</p> <p>⑥ 正課外の講座について、Google Classroomや求人検索ナビといったツールが、学生に使い易い仕様になっているかを確認し、改良を行う。「キャリアブック」に関しては、Google Classroomへの搭載のみならず、手元に冊子としてあることへの要望があるため、双方用意する。</p> <p>⑦ 保護者対象就職説明会について、対面・オンライン・ハイブリットなど、その時の状況に応じたやり方で円滑に実施し、保護者の不安の解消に務める。</p> <p>⑧ 合同企業セミナーについて、WEB開催によるメリット・デメリットを確認しておき、今後対面でもWEBでも、良さをいかした運営ができるようにし、就職実績に繋げる。</p> <p>⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートが未着手の大学部門については、2021年度に実施する。</p>

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① 正課授業のキャリア教育について、キャリア教育に係る人材確保のための予算確保と受入れ体制の確認をする。
- ② 内定率について、基本的な求人検索ナビの登録の流れや操作法を適宜、講座や説明会においても周知徹底する。内定が決まらない学生への連絡や個別相談への誘導を丁寧に行う。
- ③ キャリア研修について、初のオンラインによる「キャリア研修Ⅰ」を開催するよう、検討・準備を行う。
- ④ 個別の学生相談について、J-netに都度記録を残すとともに、カウンセラーからのフィードバックを定期的に、部内および就職・キャリア委員と共有する。
- ⑤ 学生の状況把握について、WEB面談予約・求人検索ナビへのアクセスが更に学生にとってスムーズになるよう、使う者にとって更に見やすく、わかりやすいものに改善する。
- ⑥ 正課外の講座について、一連の本学就職対策講座については、参加人数や参加者アンケートの結果等の報告を適宜、部内と就職・キャリア委員会で行う。
- ⑦ 保護者対象就職説明会について、事前に、様々な開催パターンに合わせて開催方法を検討しておき、計画的に実施する。
- ⑧ 合同企業セミナーについて、Zoom開催の利便性を生かし、学科や職種などのニーズに応じた「合同企業WEBセミナー」の開催を検討する。
- ⑨ アンケートについて、大学卒業後の卒業生アンケートおよび卒業生が就職した企業へのアンケートを高等教育研究所IR部門と共同で実施する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート5	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター(構成員数)	入学センター(14名)、入試広報委員会(28名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者(役職)	田中 泰恵(入試広報委員会委員長)、竹田 英司(入試広報部長)		
会議概要(実績回数)	入学センター運営委員会(8回)、入試広報委員会(9回)		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	<p>1. 取組状況(Do)</p> <p>① 募集活動について、新型コロナウイルス感染防止対策に伴うWEB入試相談の実施体制の構築(5月)、WEB学科相談(短大)の実施体制の構築(6月)、高校訪問、進学ガイダンスへの積極的参加(6~12月)、高校教員対象説明会(6月)の中止(通知文書に受験生応援サイトのほか、WEB入試相談等オンラインの受験生対応をお知らせ)</p> <p>② 入試制度改革に伴う総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜への移行(試験日程等)、入学者選抜実施に伴う新型コロナウイルス感染予防対策及び新型コロナウイルス感染者等への配慮措置の実施</p> <p>③ 受験生が安全志向で年内入試(総合型、推薦)の出願が増加見込である旨の助言をコンサル等から受け、年内入試の入学者確保を目指した。</p> <p>④ 一般選抜の入学者確保のため、前年度の辞退者数の状況を踏まえ、前期日程の合格者が厚くなるように学科との調整を図った。</p> <p>⑤ 来場型オープンキャンパス(以下「OC」という。)の中止(4・6・7・8・9月)に伴い、代替措置としてWEBOCを実施。一般選抜対策講座をWEBに切り替え実施(11月)</p> <p>⑥ 本学HPの受験生応援サイトの内容充実</p> <p>⑦ 新型コロナウイルス感染予防に伴うキャンパス内立ち入り制限下における次年度入学案内等の制作</p> <p>⑧ 広告媒体の活用</p>
	<p>2. 点検・評価(Check)</p> <p>① 募集活動について、期初は高校訪問ができない状況だったが、WEBによる個別相談の体制を急遽構築し、志望度の高い受験生との接触が図れた。(入試:363件、短大:86件対応)</p> <p>6月以降徐々に訪問可能な高校が出てきたため、積極的にガイダンス等に参加し、受験生との接触到に注力した。(4月~12月の接触件数:対前年123%)</p> <p>高校教員対象説明会は、各高校の教員が一斉休校前後で説明会に参加できる状況になかったため中止としたが、WEBを中心とした情報提供に切り替えた。</p> <p>② 入学者選抜について、文部科学省の通知に沿った上で、試験日程の変更を最小限に留めた。ただ、全学部統一選抜(2/2)は他大学との日程重複が影響し受験率を下げた。(対前年:38%)学内がオンライン授業を実施する中、感染予防対策を講じて入学者選抜を実施した。感染が疑われる受験生には、受験日の振替を行い配慮した。(2名)</p> <p>③ 総合型選抜は一斉休校により受験生側が高校教員の指導を十分に受けられず振るわなかったが、多くが学校推薦型選抜へ流れたため、年内入試の入学者は前年を上回った。(対前年:大学(新宿)112%、短大111%)</p> <p>④ 一般選抜について、本学への志望度が高い受験生確保を目指して、前期日程の合格者を増やし対前年108%とした。他大進学を理由とした辞退や中期、後期の志願者減少の影響を受けたが、新宿6学部としての入学定員超過率は105%だった。</p> <p>⑤ OCについて、実施形態の決定プロセスが未整備だったため、対面式とオンラインを両方準備せざるを得ず実施できるプログラムが限定されたが、8月にWEBOCを開催した。(238名)</p> <p>⑥ 本学HPの受験生応援サイトに、オープンキャンパス中止に伴い、「学科紹介動画」やメジスタによる「キャンパスツアー」を制作し、掲載した。</p> <p>⑦ 入学案内等の制作物について、在校生の大半がオンライン授業で登校しない状況の中、個別に了承をとり、感染防止の対策をとりながら撮影を行った。</p> <p>⑧ 広告媒体について、対面式OCの中止が決まったのち、従来の電車広告を可能な範囲で縮小し、WEBOCへの動員を図るため電子媒体(LINE等)への広告掲出に切り替えた。</p>
	<p>3. 課題と次年度の改善目標(Action)</p> <p>① 募集活動について、対面式の進学ガイダンスは受験生の情報源であるため、積極的に参加する。高校教員への情報提供を重視し首都圏を中心に訪問する。高校教員対象説明会は、教員からの要望が多いことから学科教員及び入試職員との相談は対面式とし、説明会は感染予防の観点からWEBによる配信とする。</p> <p>② 試験日程は、2021年度を踏襲するが、全学部統一選抜については他大学との日程重複を避けるため1/30(日)に設定し、出願者数増を目指す。また、文部科学省の感染予防対策ガイドラインを遵守し、入学者選抜を実施する。</p> <p>③ 本年度も総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者確保は重要であるため、受験生や高校教員にむけて継続かつ複合的な情報提供を行う。</p> <p>④ 一般選抜においては、受験生に併願校として選んでもらうために本学を知ってもらうことが重要であるため③と同様の情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に合否判定を行う。</p> <p>⑤ OCの実施形態の決定プロセスに基づき、ハイブリッド型OC又は完全オンラインOCのいずれかを実施する。</p> <p>⑥ 本学HPの受験生応援サイトに、2020年度に充実させた動画のノウハウを継続し、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、WEB上で必要な情報を提供することに注力する。</p> <p>⑦ 2023年度入学者選抜にむけた制作物は、最新の受験動向を踏まえて競合校を意識した内容を念頭に検討を進める。</p> <p>⑧ 広告媒体については、受験サイト(電子媒体)から本学の受験生応援サイトにアクセスしやすい環境整備を行う。</p>
<p>4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)</p>	

- ① 募集活動について、受験生の受験校選定には入試種別に関わらず高校教員の存在が大きいため、首都圏の高校を中心とした訪問を行う。進学ガイダンスは、積極的に参加し受験生と接触を図る。
- ② 入学者選抜について、2023年度入学者選抜の日程(2021年度中に審議・決定)は、年内入試は2022年度入学者選抜を基に、一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。
- ③ 総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことでより志望度が高くなる傾向にあるため、オープンキャンパスでの満足度があがるような企画を実施する。
- ④ 一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討おり、これらをもとに高校教員と相談の上併願校を決定している。そのため、これらに漏れがないように情報発信を行っていく。全学科1.19倍の入学者確保を目指す。
- ⑤ OCについて、受験生は、高校の授業が対面式であるため、対面式のOCを望んでおり、感染予防対策を講じつつ、より多くの受験生を受け入れられるように体制を整備する。また、開催時期によるコンセプトを明確にして、魅力ある企画を目指す。
- ⑥ 受験生が情報を収集する上で本学HPの受験生応援サイトの重要性が増しているため、引き続き魅力ある内容を提供するほか、わかりやすさ等にも配慮する。
- ⑦ 入学案内等の制作物について、電子媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。
- ⑧ 広告媒体については、電子媒体は媒体毎に資料請求状況が集計できるため、集計状況、費用対効果等の検証を行い、総合的な評価が低い媒体から高い媒体へ切り替えを行い、効率的な広報を実施する。

2020年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部会）

発行：2021年11月

